

奥入瀬溪流の利活用検討 NEWS

(平成28年7月発行)

第2号

発行者：奥入瀬溪流利活用検討委員会事務局（十和田市・青森県・国土交通省）

このニュースレターは、「今後の奥入瀬溪流の利活用」について、地域の皆さまとのコミュニケーションの状況を広くお知らせするために発行しています。

第2回 奥入瀬溪流の利活用に関する講演会・ワークショップ



地域の魅力・資源を磨き上げ、 周辺地域と連携しながら、 地域づくりを進めていく重要性が確認されました

講演会では、JTB グループ本社国内事業本部 観光戦略チーム 観光立国推進担当マネージャーの山下真輝氏に、右記のテーマにてお話しいただきました。

山下氏は、JTB グループが進める「地域交流プロジェクト」を通じて、国内の観光振興や地域活性化に取り組んでおられ、右記のような話題とともに、事例紹介もしていただきました。（詳しくは4ページへ）

ワークショップでは、山下氏の「観光客目線で、地域の魅力・資源を見直し、観光振興の方向性を考えることが重要」というお話を受け、まず、奥入瀬・十和田地域の魅力や資源を確認し、どのような観光客に、どのように楽しんでもらいたいかを話し合いました。

さらに、観光振興の方向性を話し合う中では、この地域だけでなく、青森県・秋田県など広域での連携の必要性にも話題が及びました。（詳しくは2・3ページへ）

- *日 時：平成28年4月8日（金）14：00～17：00
- *会 場：市民交流プラザ「タワーレ」（十和田市稲生町）
- *講演のテーマ
地方創生時代の観光戦略の方向性を考える
～地域ブランドづくりを目指した観光振興について～
- *講 師：山下真輝氏（JTBグループ本社国内事業本部）
- *講演の主な話題
 - ・今、観光地を取りまく社会情勢に、どのような変化がおきているのか。
 - ・継続的に選ばれる観光地としてブランド化していくには、何が必要か。
 - ・観光客のニーズを満たすマーケティングとは何か。
 - ・観光客に、「特別な体験ができる大切な場所」と感じてもらうには何が重要か。



「奥入瀬溪流の利活用検討」とは



あおぶなやま

現在、国道103号奥入瀬（青樺山）バイパスの整備が進められています。

バイパスが整備されると、道路空間を柔軟に使うことが可能になり、観光振興、ひいては地域づくりにも大きく影響します。そして、地域の皆さまの生活にも、少なからず影響があると考えられます。

そこで、行政と地域の皆さまが一体となり、奥入瀬の交通規制、観光振興、地域づくりも含めて、「地域の将来のあり方」の検討が進められています。

まずは、平成28年2月から「奥入瀬溪流の利活用に関する講演会・ワークショップ」が始まり、「地域の将来あるべき姿」を実現するために道路の利活用や観光振興にどのように取り組むのか等々、地域の方向性を示す「奥入瀬ビジョン」を策定するための検討が進められています。

第2回ワークショップで寄せられた **ご意見の要旨**

1 奥入瀬・十和田地域の魅力・資源

自然・景観の魅力

- 奥入瀬・十和田地域は、ジオパーク（地質学的遺産）・エコパーク（自然遺産）等、様々な魅力がある。
- 奥入瀬渓流の遊歩道で、川べりを歩くことができるのは、魅力である。緑、せせらぎの音、澄んだ空気に触れてリラックスできる。バイパス整備後に、この区間をフィールドミュージアムとする構想もある。
- 四季や天候により景観が異なる。新緑、紅葉、雨の日の景観は美しい。夜は、星空も美しい。東・東南アジアの観光客には、新緑、紅葉が好評である。
- 早朝の一瞬だが、朝日が昇る際の湖面の輝き、景観が美しい。
- 落葉後、葉に隠れて見えなかった岩肌（溶岩）が見えるようになり、魅力的である。
- 双竜の滝、松見の滝もアクセスしにくい、素晴らしい。今は閉鎖されてしまったが、花鳥渓谷は素晴らしい。
- コケを観察すると、八甲田・奥入瀬・十和田の自然史が理解できる。
- 奥入瀬に生息するクマタカ、十和田湖に生息するヒメマスが魅力的である。

★ 広域でみると、八甲田山、蔦温泉、谷地温泉、八戸の朝市、秋田県小坂町の菜の花畑・明治百年通り（桜並木通り）・鉛山地区等、様々な観光資源があるので、それらの地域と連携できるとよい。

スポーツの魅力

- ネイチャーツアーで、コケ・ブナ森を紹介していて好評である。魅力・資源を生かせるように下地づくりをして、イベントを開催できるとよい。
- 奥入瀬渓流では渓流釣りができる。また、昭和40年代から50年代は、十和田湖でワカサギ釣りができたが、近年は湖が凍らず、難しくなっている。
- 地域の保育園児・小学生と一緒に、ヒメマスの稚魚放流と、その3年後に成魚を迎えるイベントをしている。子どもたちが地引網漁をして、捕ったヒメマスを食べるといった貴重な体験の場になっている。
- 5月、10月、11月には、カナディアンカヌーツアーを実施している。以前は、十和田湖に湖水浴場、貸切水泳施設があった。
- 十和田湖一周マラソンは、良い取り組みである。

人・歴史・文化の魅力

- 奥入瀬・十和田地域は、古くから信仰の地であり、伝説がたくさんある。また、奥入瀬の滝は、かつて十滝寺と呼ばれ、修行の場であった。
- 発荷峠の展望台から十和田湖を見ると、御倉山・御倉半島・中山半島が大蛇のように見え、時期によっては雲海も見られる。

- 発荷峠から十和田湖に至る白沢道は十和田神社に向かう古道であった。十和田神社から御倉山のご神体を拝む風習があった。
- 乙女の像や宇樽部～新郷間の開拓記も観光資源である。

★ 広域でみると、秋田県小坂町の鉱山事務所、レイルパーク、和井内神社も観光資源である。

季節(冬季)の魅力

- 冬の奥入瀬は、氷柱が見られ魅力的である。吹雪後の晴天には、雪が樹木に付着してきれいである。
- 冬の奥入瀬を歩くツアーは、観光客の満足度が高いようだ。移動手段、宿泊場所、地元のおいしい料理があれば、冬でも観光客に魅力を感じてもらえる観光資源はあるだろう。
- 雪上車で観光客を運びスキーで降りるツアー、スノーシューツアーも良いだろう。

食の魅力

- 十和田湖のヒメマスは、淡水魚だが刺身で食べられるため、価値がある。
- 宇樽部・焼山・休屋の定食屋では、バラ焼き、ヒメマス天井等が食べられておいしい。
- 宇樽部のイタヤカエデからとれるメープルシロップがおいしい。
- 奥入瀬渓流・十和田湖の水はおいしい。美容効果もある。奥入瀬渓流の水でつくった奥入瀬ビールは、世界でも高く評価されている。



魅力・資源を

3 こんな人に楽しんでもらいたい！

- 自然や四季を楽しみに訪れる人、観光資源の価値を理解できる人に来てもらいたい。
- 30代40代は、子どもや親と一緒に来る可能性があるため、ターゲットにしたい。子どもの頃に家族で来た思い出があれば、やがて再訪してくれるのではないかな。

4 その他

地域の課題など

- ★ 奥入瀬川が流れる十和田市・六戸町・おいらせ町や三沢市、七戸町、小坂町等、地域間の連携が弱く、地域の魅力・資源を観光客にうまく伝えられていない。地域間で連携して、観光振興に取り組む必要がある。
- 奥入瀬・十和田地域に人が住み続けるのか否かという議論も必要ではないか。自然優先で考えるなら、人は住まないという考えもある。一方、住み続ける場合には、生活基盤を整える必要がある。
- 以前は、観光客以外に、事業者が地域でお金を使ってくれたが、今後はそのような経済効果は期待できない。
- 奥入瀬・十和田地域に魅力は多いが、地域住民は身近過ぎて、気づいていないかもしれない。また、観光客に魅力をうまく伝えられていないとも考えられる。
- 休屋では働き手が不足しており、若手世代に住んでほしい。

奥入瀬・十和田地域の魅力・資源を再確認するとともに、魅力・資源を、「どのような方に」「どのように」楽しんでもらいたいか話し合いました

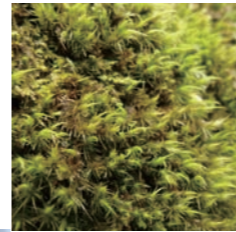
★印は、近隣観光地との広域連携と関係するご意見

魅力・資源を

2 こんな風楽しんでもらいたい！

滞在型観光の提供

- 観光客には、奥入瀬・十和田地域にゆっくり滞在してもらい、自然・歴史・文化への理解を深めて、好きになってもらいたい。
- 車内からみるだけでは、見逃しがちな資源の魅力を伝えていきたい。



体験型ツアーの提供

- ネイチャーガイドツアー、朝日を眺めるツアー、ヒメマスの放流・捕獲体験等、体験型ツアーを楽しんでもらいたい。体験を通して、ヒメマスが十和田湖の名産であること等、地域への理解を深めてもらいたい。

- 地域のお年寄りのお話も魅力的なので、紹介したい。

冬季の資源・地質学的資源の活用

- 冬の資源や地質学的資源等、今まで知られていなかったものを楽しめるような機会を提供したい。
- 地質学の視点では、今十和田湖がある所で火山が噴火し、火砕流によって奥入瀬渓流が形成されたという成り立ちを紹介したい。
- これまでは、生物学の視点から観光資源を捉えられてきたが、コケは生物学・地質学の両者をつなぐ観光資源であり、うまく活用して魅力を伝えたい。

- 例えば、20代はデート、30代40代は家族旅行、50代以上はゆっくり過ごす等、年代によって観光目的が異なると思うので、各々のニーズを満たす形で楽しんでもらいたい。
- 高齢者・障がい者の方にも、訪問してほしい。
- 女子旅で訪れる人、外国人バックパッカー等、特定の層をターゲットにしてもよいのではないかな。

★ 冬の公共交通手段がなく、十和田湖冬物語の時期であってもアクセスしにくい。ワンボックスカーや、ホテルのシャトルバスなどをもっと利用してほしい。

- 国道102号に交通規制をかけると、子ノ口・休屋地区にもっと駐車スペースが必要になるだろう。
- エコロードフェスタ中に、お土産店などの売上が減った。交通規制の影響も考えられるため、規制を実施する際には観光事業者への影響に十分留意する必要がある。
- 十和田湖周辺の展望台付近・乙女の像への遊歩道では、冬に十分な除雪がされておらず、冬に観光できない。
- バイパス整備後も、国道102号で除雪などの維持管理を引き続き実施し、観光に影響が出ないようにする必要がある。
- 休屋の廃屋による景観の悪化、高齢者が歩きにくい段差、外国語案内表示の不足などの課題もある。
- 十和田湖の観光マップが食事用・体験用に別れているが、地域の魅力が一目でわかるように一元化した方がよい。

水資源の活用

- 奥入瀬渓流、十和田湖の水は魅力的な資源である。この水を使った飲料水や奥入瀬ビールを飲んでもらいたい。

新たな観光形態の発掘・広報

- 新しい観光形態への転換が必要である。例えば、CGによる奥入瀬渓流・十和田湖の成り立ちの紹介、ドローンによる空撮、スポーツ・映画撮影を誘致・支援する機関の設置等に取り組んでほしい。

文化風土・気候が異なる広域での資源の活用

- 観光客にとっては行政界は関係ないため、広域で観光資源を捉えて、魅力を提供していきたい。その際、八甲田山を境に、文化風土・気候が異なるので、そのことを意識する必要がある。
- 奥入瀬・十和田地域だけで観光に取り組むのではなく、十和田市・青森市・八戸市、さらには秋田県との連携も視野に入れて、広域で観光ルートを用意できると良い。

国立公園特別自然保護地区内にある国道の活用

- 国道102号は、国立公園特別保護地区内に国道が通る珍しい例なので、これ自体が資源ではないか。
- 自動車を走らせず、道路を活用して観光客に楽しんでもらいたい。

公共交通(主にバス)の充実

- 広域を観光するには、移動手段が重要である。奥入瀬・十和田地域らしいデザインの観光バスを用意してほしい。
- 観光バスは運行を充実させ、例えば、バスの乗降ポイントで魅力を伝える、乗り降り自由にする、荷物の運搬サービスを行う、など工夫することで喜ばれるのではないかな。
- 観光客が目的地に到着できるような標識などを工夫してほしい。

今後の進め方

- ★ 自分たちの生活と観光の間にはどのような関係があるか考えながら、奥入瀬・十和田地域の地域づくりについて、議論していく必要がある。
- ★ 奥入瀬・十和田地域、およびその周辺地域の方も、地域を元気にしたいという思い・理念は同じなので、青森県・秋田県の広域で連携して観光振興に取り組む必要がある。
- ★ 広域連携に取り組む前に、周辺地域の取り組みを把握したいので、周辺地域の観光関係者や地域住民に、今回のワークショップ等に参加してもらってもよいのではないかな。
- ★ 魅力的な資源がある地域なので、誇りと自信をもって、自分たちのことを外部に発信していきたい。
- ★ 資源を奥入瀬渓流全体で捉えるか、渓流内の地区・箇所で見えるか、観光の取り組みの進め方も変わるだろう。捉え方ごとに議論を深める必要があるのではないかな。
- ★ ワークショップの主題を道路利活用とするか、観光振興とするか考える必要があるのではないかな。



地方創生時代の観光戦略の方向性を考える

～地域ブランドづくりを目指した観光振興について～

JTBグループ本社国内事業本部
山下真輝氏

地域の観光地を取り巻く

大きな変化を見逃さない！

近年、各地の観光地では、旅行消費額の減少や団体旅行の減少などの共通の課題を抱えています。実際に、旅行消費額は、2006年から2013年にかけて6.5兆円減少しました。

また、バブル崩壊以降、個人旅行の旅行形態が変化し、従来のインフラやサービスモデルでは、観光客の満足度を高めることが難しくなっています。

一方で、訪日外国人観光客数が増加していることは大きなチャンスでもあります。

観光地にとっては、このような社会情勢の変化に順応していく必要があります。



観光客のニーズを

満たすためのマーケティングとは？

成熟社会を迎えたことで、「心の豊かさ」が求められるようになり、観光客は、自分のライフスタイルを向上させる「体験」を求めるようになってきています。

観光地の側も、観光客のニーズを理解した上で、ニーズを満たすためにサービスを提供するというスタンスで、マーケティングをすることが大切といえるでしょう。

今、観光地は、地域の資源をつないで「物語」をつむぎ出し、その地域でしかできない「体験」を提案していくことを求められています。

地域活性化に向けた

観光振興と地域ブランドづくりを！

観光振興を進める上では、そもそも、どのような地域にしたいか、何のために観光振興をするのか、どのような観光客に来てほしいかを、明確にすることが必要です。

明確化することで、継続的に選ばれる観光地としてブランド化していくことが可能となります。

さらに、観光という場を利用して、農業・漁業・製造業・商業など、あらゆる産業振興をリンクさせていくことで、地域産業全体の活性化にもつなげていけるでしょう。

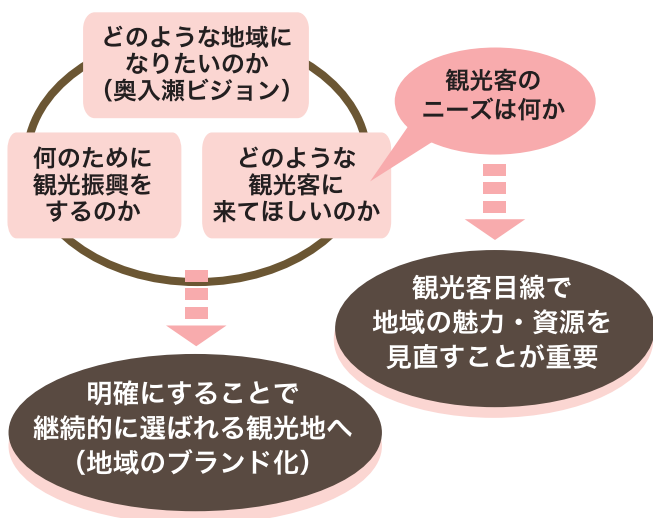
奥入瀬渓流が観光客にとって

特別な場所になるために！

観光客は、訪れた地域に対して、そこが「特別な体験ができる大切な場所」と感じた時に、ファンになります。

観光客にそう感じてもらうには、観光客目線で地域の魅力や資源を見直し、「この地域にしかないもの」を提案していくことが重要です。

また、改めて、地域が一体となって、この地域にしかないものは何か、なぜ観光客はこの地域に来なければならないのか、考えることが重要です。



山下真輝氏のご紹介

JTBグループが全社で推進する観光を基軸とした地域活性化事業として立ち上げた「地域交流プロジェクト」をJTBグループ本社で推進するべく、全社戦略の策定や人材育成に取組み、観光庁、経済産業省、文部科学省等の中央省庁における観光立国に関する様々な政策にも関わっている。

全国各地から講演会やパネルディスカッションの出演依頼も多数あり、全国各地の観光地域づくりや6次産業化に関するセミナーやシンポジウムにおける講演活動や観光人材育成講座の講師や一般社団

法人日本スポーツツーリズム推進機構における観光地域づくり委員会委員長など観光分野の各種委員を多数務めているほか、内閣府地域活性化伝道師として地域活性化の啓蒙活動も行っている。

北京大学国際関係学院アジア経済文化研究所特別研究員、日本農業経営大学校講師、観光庁ビジッジョヤパン・プラスワーキングメンバー、福岡地域戦略推進協議会観光部会副部長 (MICE 戦略策定) 福島県岩瀬地方広域連絡協議会着地型旅行推進アドバイザー等多数歴任。

お問い合わせ先

奥入瀬渓流利活用検討委員会事務局（十和田市観光推進課）
〒034-8615 十和田市西十二番町 6-1 TEL：0176-51-6772